

令和4年度 地域活性化活動奨励事業活動概要
「万倉っ子の栽培体験学習Ⅱ」

宇部市立万倉小学校

はじめに

本校は、宇部市北部に位置する児童数28名、複式学級3クラスの小規模校である。地域には、「赤間硯」、「岩戸神楽舞」といった芸術文化だけでなく、「万倉なす」といった特産物もあり、それら地域にある「人・もの・こと・自然」との出会いの中で、ふるさと万倉のすばらしさを知る学習に取り組んでいる。

今年度も新型コロナウイルス感染症予防対策をとりながら学校と地域が連携し、地域での体験活動や地域の方々との様々な活動を展開した。特に、花や野菜の栽培・販売等において、地域活性化活動奨励事業による道具・肥料の充実は大変効果があった。ここでその一端を紹介し、地域活性化活動奨励事業の報告とする。

実践事例

○玉ねぎ・ジャガイモ・人参の収穫（全校）

昨年度12月9日（木）に万倉地区の特産品である「宮尾玉ねぎ」の苗を3・4年生が植えて、冬に2回の追肥をしながら育ててきた。それを、4・5年生になった児童が5月31日（火）に収穫した。中には3Lを超える大きさの玉ねぎもあり、400個近く収穫することができた。

ジャガイモは、昨年度3月3日（木）に5年生が種イモを植え、芽かきや追肥、土寄せをしながら育て、今年度6年生になって6月10日（金）に収穫した。まるで宝探しのように楽しみながらジャガイモを掘り起こしていた。人参は、昨年度3月11日（金）1・2年生が万倉地区の特産品である「宮尾人参」の種をまき、水やりや間引きをしながら育ててきた。それを、6月20日（月）に1～3年生が収穫した。五股に分かれていたりぐるぐる巻きになっていたたりしたおもしろ人参もあり、児童はとても喜んでた。

いずれも苗植え・種イモ植え・種まきから間引き・追肥そして収穫まで、地域コーディネーターで社会教育推進委員の方に指導とお世話をいただいた。おかげで心配した病気にもかかわらず順調に収穫できた。

児童の希望は、①持って帰る、②給食に使う、③全校にプレゼントする、④先生にプレゼントする、⑤地域の方にプレゼントする、⑥「1・2年やおや」で売るが挙げられ、玉ねぎはその全てを実行できた。

そのうち給食では、「玉ねぎ・ジャガイモ・人参」を一緒に使って、「万倉っ子カレー」という献立で登場した。給食室の調理員さんからのサプライズで、人参の型抜き（車と魚）も乗せてもらい特別感満載の献立となった。「地産地消」ならぬ「学校産学校消」となった。他にも、新玉ねぎのかき揚げ、フライドポテト、ジャーマンポテト、さらに汁物やおかずの具材となって何度も登場し食育の教材にもなった。

また、袋詰めされた玉ねぎは「万倉っ子オニオン」と子ども達が命名し、イラストとメッセージを書いたカードが添えられ、見守り隊や校運営協議会委員、水泳見守りボランティア、読み聞かせボランティア、家庭科学習支援ボランティア等お世話になった方々にプレゼントとした。お礼の電話や調理した写真を添えたメッセージカードをいただき、学校産野菜は児童と地域をつなぐ懸け橋となった。



○夏野菜の栽培と販売（1・2年）

5月12日（木）地域の方2名に教わりながら、昨年度の収益金から万倉地区にある「楠こもれびの郷」で夏野菜の苗を購入し、なす、キュウリ、ピーマン、オクラ、枝豆の5種類の苗と万倉地区の特産品万倉茄子とミニトマトの苗を植え、世話をした。子ども達は、草抜きや水やり、わき芽つみ、追肥をしながら、毎日野菜を観察しその成長に喜びを感じていた。「キュウリがこんなに大きくなりました。」と言って笑顔で見せてくれた。



宇部市北部総合支所中山間地域・保健福祉支援チームの取り次ぎで、昨年度に続き「楠こもれびの郷」で、4回目の「1・2年やおや」を開店し、販売体験をした。看板やポスターを作り、「楠こもれびの郷」でも、テーブルやクロス、レジスター、袋などを用意していただいた。7月8日（金）の朝、保護者や地域の方のサポートを受けて野菜を収穫し、袋に詰め、値札をつけた。10時30分、「1・2年やおや」がオープンし、子ども達の「いらっしやいませ。」「ありがとうございました。」の聲が広がった。4・5年生が収穫した玉ねぎも夏野菜と一緒に売られ、30分で完売した。さらに、この活動が地域学校協働活動として宇部市教育委員会コミスクホームページのホットニュースに掲載された。



○サツマイモ栽培と焼き芋大会（1・2年）

毎年サツマイモを育て収穫後、近くの宮尾八幡宮で地域の方に火をおこしていただき焼き芋大会をしている。

今年は、6月2日（木）に、玉ねぎを収穫した後の畑にサツマイモの苗を植えた。畑の面積は、昨年度の2倍になり、苗も2倍植えた。全校児童分の焼き芋を作ろうという目標に向けて、子ども達は、マルチシートを敷き苗を植えていった。



11月2日（火）に、植える時に教えていただいた地域の方と一緒に、さつまいもを収穫した。つるだけでも、軽トラックの荷台がいっぱいになった。固い土をミツグワでほぐしてもらった後、子ども達が掘り起こすと大きなサツマイモがたくさん出てきた。重さを計ったところ、総重量は、123.4kgだった。昨年の約5倍だった。



12月6日（火）には、宮尾八幡宮に行き、保護者と一緒に落ち葉集め兼掃除をした。参道をきれいにすると同時に、焼き芋大会用に燃やす落ち葉を集めた。

12月13日（火）に、地域・保護者の方も参加した焼き芋大会で、全校児童分の焼き芋を作った。ほくほくの美味しい焼き芋を「美味しい。」と言いながら食べていた。昨年度よりも多くの地域の方が参加してくださり、にぎやかな会になった。

○夏秋花壇プロデュースと花壇ボランティア（5・6年）

主体的な活動にするために、6月17日（金）に5・6年児童が花壇のデザインと花の配置を考えた。今年のテーマは「花火」に決め、縦割り班ごとにタブレットを使って、花壇の形に合わせてサルビア、マリーゴールド等を高さや色合いを考えて配置し、デザインを作っていた。

6月29日（水）には、花壇ボランティア5人の方と交流しながら一緒に苗植えを行った。5・6年生は、花壇プロデュースに従ってリーダーシップを発揮し、下級生に指示を出していた。今年度は体育館東側のノリ面に地域花壇を作り、マリーゴールドを花壇ボランティアの方に植えていただき、お



世話もしていただけることになった。

また、地域の方5人で、週休日や夏季休業中の閉庁日に分担して、水やりをしていただいた。おかげで、きれいな花を咲かせることができた。

○田植え・稲刈り・脱穀体験と万倉地区子ども委員会（3～6年）

6月7日（火）、3年ぶりの田植えが実施された。地域の子ども委員会の方10名が参加された。経験しているのは6年生だけだったが、3～5年生も地域の方に教わりながら、ひもの印にあわせ上手に苗を植えていった。泥の感触に歓声を上げながらも、手植えの大変さも感じた様子だった。

雨のため順延が続いたが、10月14日（金）、3年生以上で稲刈りをした。かまで刈り取り、束にして竹に立てかけるところまで、地域の子ども委員会の方に教わりながら、協力してやり遂げていた。この藁は、12月の「万倉のつどい」の時に、しめ縄飾りの材料に使われた。収穫したもち米は、餅つきができなかったため、販売されることになった。

10月21日（金）には、5・6年が脱穀体験をした。昔ながらの道具の千歯扱き（せんばこき）と足踏脱穀機（あしづみだっこき）、唐箕（とうみ）で脱穀を体験した後、ライスセンターでお米が乾燥・選米される様子を見学した。コンバインや農業用ドローン等の機械も見せてもらい、農業に関心を寄せていた。

○人権の花「ひまわり」の種贈呈式と種まき（全校）

宇部市の人権教育の一環で、今年度「人権の花」運動に取り組んだ。児童が協力し、ひまわりを種から育てることにより、生命の尊さを実感し、豊かな心や優しい思いやりの心を体得することを趣旨としている。

6月17日（金）、宇部市の人権擁護委員、市職員が来校し、ひまわりの種を贈呈された。合わせて、「人KENまもる君」と「人KENあゆみちゃん」の人形もいただいた。贈呈されたひまわりの種は、ロシアという品種で、大きく育ち、2メートル以上の高さになったものもあった。

○冬野菜の栽培と第2回販売（1・2年）

10月5日（水）、1・2年生が、地域の方に教わりながら、冬野菜の大根、カブ、人参、小松菜、ホウレンソウを植えた。種は、「1・2年やおや」の収益金を使って、「楠こもれびの郷」に買いに行った。20日後には、間引きをし嬉しそうに家に持ち帰った。

12月15日（金）に、カブと大根、ホウレンソウ、春菊を販売した。朝一番に野菜を収穫し、冷たい水で洗ってきれいにすることに一生懸命取り組んだ。その後、ホウレンソウと春菊の根を切ったり、袋詰めしたり、すべての野菜の値札を作ったりと、商品として売るための準備をした。昨年度経験した3年生も、袋詰めや値段設定に力と知恵を貸してくれた。

売り場では、「種から一生懸命育てた野菜です。」「大根は、おでんにするとおいしいですよ。」と呼びかけの言葉も工夫していった。売り場に参加できなかった子どももリモート参加して、タブレットを通じて大きな声で「いらっしゃいませ。」と呼び込みをして盛り上げた。「楠こもれびの郷」での販売経験を重ね、前回よりもお客さんへの声かけやレジ打ち、お金の扱い、品物渡しなどが上達し、コミュニケーション力が向上していた。



また、収穫した大根とカブ、サツマイモは給食の献立になって登場した。「自分達で育てた野菜はおいしいです。」と言って普段野菜に苦戦している児童も美味しく食べることができた。

の販売で得た収益金は、2月に行う感謝の会や来年度の種や苗代として活用することにしている。

○春花壇プロデュースと花壇ボランティア（5年）

11月18日（金）、6年生からのバトンを受けて5年生児童が花壇のデザインと花の配置を考えた。今回は、「協力して 笑顔咲く」をテーマとした。春に咲くキンセンカ・ノースポール・ワスレナグサ・ビオラ・チューリップの花を、縦割り班ごとに地域の6名の方と一緒に植えた。また、有機肥料（ホーチコン）と稲刈り・脱穀で出たもみ殻を土に混ぜ込むことで花壇の土の改良ができた。この後、地域の方々は、体育館東側ののり面の地域花壇にキンセンカとビオラを植えられた。



また、水やりに時間がかかるという課題を改善するため、花壇に穴あきの散水ホースをはわせ、自動水やりタイマーを取り付けた。冬は霜など氷点下以下になることも多いので、地域の方からいただいた不織布で花壇を被い、防寒対策も施した。散水ホースを設置していないところは、環境委員会が水やりをしている。

○菜の花の苗を地域・家庭へゆずる活動

環境委員会が昨年度秋に植えた菜の花から種を採取した。その種を10月初旬に蒔いたところ、たくさん芽を出し苗ができた。そこで、地域や保護者に、苗を譲ることにした。ある保護者から「もらった菜の花の苗を庭に植えました。」と嬉しい話を聞くことができた。



成果と課題

<成果>

3年ぶりの田植え体験や、初めての玉ねぎ・ジャガイモ・人参・万倉茄子栽培、さらに収穫した野菜を給食やプレゼントに活用と、昨年度には無い新しい取組にチャレンジすることができた。どの活動に対しても児童は主体的に取り組むことができた。

目的意識を持った活動は、児童の主体性が生まれる。「1・2年やおやで販売したい。」「地域の人にプレゼントしたい。」という目的意識があれば、草抜きや土の耕運、施肥、支柱立て、水やり、収穫といった一連の栽培活動にも意欲的になり、大変さや苦勞の先にある充実感や達成感を味わうことができる。しかも、昨年度の経験が積み重なることで、前回の課題を改善しようと工夫も生まれる。児童の「もっとこうしたい。」「こうすればうまくいくかも。」といった創造力を生み、バージョンアップされた取組となった。

このように、栽培体験活動を通して児童と地域が必然性をもって積極的につながることで、子どもたちに豊かな教育活動を提供できたことは言うまでもない。また、地域の方にとっても、児童との協働活動は元気の源となり、地域の活性化につながっている。

本年度の学校評価アンケートでは、児童用設問「地域の人と、話や勉強をすることは楽しい」の肯定的回答が96%だった。保護者用・学校運営協議会委員用設問「学校は、地域・保護者と連携した教育活動に取り組んでいる」の肯定的回答が、保護者・学校運営協議会委員とも100%だった。教職員用設問「学校は、地域・保護者と連携した教育活動を積極的に仕組んでいる」の肯定的回答も100%だった。さらに、設問「学校は、野菜の栽培・収穫・皮むき体験活動や給食指導などを通して、児童の食への関心を高めている」は、全ての対象で肯定的回答が100%だった。

栽培体験活動の取組が、万倉地域の豊かな自然や人とのふれあいを育み、食育への関心も高め、アンケートの高い評価につながったと考える。

<課 題>

課題としては、継続した活動にするための子どものモチベーションの向上、職員によるサポート、地域支援の継続・組織化が挙げられる。活動のゴールを常にブラッシュアップさせながら子どもとともにステップアップすること、担当や担任1人ではなく他の職員のサポートを受け学校全体で組織的に関わるのが重要である。そのためにも、教育課程に位置付ける学校地域連携カリキュラムのマネジメントが必要となるであろう。そして、地域と共有し、地域とともにブラッシュアップしていくことができれば、今後地域主体で協働する活動は、一過性ではなく持続可能な活動となっていくだろう。

おわりに

本校の地域連携活動は、学校目標「地域を愛し、人を大切にする子どもの育成」を進める上で欠かすことができない取組である。今年度も山口県教育会の「地域活性化活動奨励事業」の支援により、この取組を充実させることができた。本事業より厚いご支援とご指導をいただいたことに対し、深く感謝申し上げたい。今後も、教職員・保護者・地域とともに、よりよきパートナーとなって実践を積み重ねていきたい。